

副

元老ニシテ相當勢力アリ、同人ノ出馬ニ對シ何人モ之ニ衝突クモノナ
カルヘク故ニ現時紛糾セル東三省ノ局面モ同人ノ手ニ依リ急速ニ常
態ニ復スルノ可能性アリ、而シテ時局一段落ヲ告クル後ハ更ニ同人ノ
手ヲ藉リテ宣統帝ヲ滿洲ニ迎ヘ茲ニ東北諸省ヲ統一スル獨立政體ヲ
設立スルコト之レ日滿双方ノ幸福ノ爲メ最良策ナル旨進言シ日本軍
部當局ニ對シ獻策方懇懇セシ處日本軍部ニ於テハ作相ハ學良ト同様
排日派ノ巨頭ト看做シ到底同人ヲ容認スルコト能ハサル旨答ヘタル
ヲ以テ余ハ更ニ作相カ日本人側ヨリ排日ノ誤解ヲ受ケタルハ吉會館
道問題交渉ノ際其調印ヲ拒ミタル爲ナルカ右ハ日本方作相ノ「トリ
ツク」ニ掛リタルモノニテ作相ハ郭松齡事件關係ノ爲日本ニ對シ該
館道ノ敷設ヲ拒ミ難キ義理アリ、彼ハ日本ニ對シテハ契約調印方ヲ作
相ニ命シタリト稱シ裏面ニ於テ作相ニ調印拒絶ヲ命シタル結果作相
ハ之ヨリ日本側ヨリ排日派トシテ脱マルルニ至リシ事情ヲ述ヘ作相
ノ爲ニ其冤罪ヲ辭解シ、決シテ日本ノ爲ニ不利ナル人物ニアラサル旨

外務省

S 1.6.2.0 - 2

434

副

4-1-190

第 二 號

樞密院東廳本長官ヨリ幣原外務大臣宛

開東廳 昭和六年十月廿二日後發

同 十月廿三日前着

電信 第一二五號 樞密、略

在奉天總領事發本官宛電報第一五四號ニ關シ
羅振玉ハ去ル十五日奉天ヨリ歸來爾來何處ヘモ旅行シタルコトナク
樞密トシテ當廳中島縣官ニ對シ左ノ如ク附レリ
余（羅振玉）ハ先般來數次奉天ニ赴キ同地滞在在中ノ高山公通貴志縣
次郎ノ兩中將等ト屢々會見シ事變後ニ於ケル日本ノ對策トシテ日本
ハ此ノ際張作相ヲ支那側ノ交渉相手トシ東北省ニ於ケル時局收拾ノ
任ニ當ラシムルヲ最良策ト信ス、其理由ハ黑龍江、張海關、張景惠、湯
玉麟等ノ人物ニテハ東北諸省ヲ統一スルノ實力ト資望ヲ缺ケルモ作
相ハ溫厚ノ長者ニシテ各方面ニ人望アリ又張作霖死後東北派ノ最高

外務省

S 1.6.2.0 - 2

433

副

力説シタルモ建ニ日本側ノ理解ヲ得ルコト能ハス結局日本軍部ノ意向ハ照治、張海鵬等ノ部分的獨立ニ依リテ當面ノ時局ヲ收拾セシムルニアルカ如キヲ以テ余ハ一先ツ作相ヲ斷念シ次善ノ策トシテ照治、張海鵬等ノ各獨立政權ヲ糾合シテ宣統帝ヲ擁立シ之ニ依リ東北諸省統一ノ政府ヲ設立スル様高山、貴志等同志ニ進言シ置キタル次第ナルカ宣統帝擁立ノ段取ニ至ル迄ニハ相當ノ曲折アルヘク夫迄ハ宣統帝ハ現在ノ臨時局ノ成行ヲ靜觀シテ絕對ニ輕舉妄動ヲ避クル様希望シツツアリ云々

右談ハ中島力雄ニ對シ絕對秘密ヲ約シタルモノ故特ニ極秘扱ヲ請フ天津ヨリ北平ヘ轉電請フ

公使、奉天、天津ヘ轉電セリ

外務省

6 1.6.2.0 - 2

435

41-31

在任官...
信統...
而...
申出...



昭和0 一七一五九 暗 天津 廿三日後發
本省 十月廿三日發着 桑島總領事

幣原外務大臣
第四二九號(極秘)

往電第四二四號ニ關シ

廿二日駐屯軍參謀長來訪シ廿一日宣統帝ヨリ親書ヲ以テ香樞司令官ニ對シ「當地ニ在リテハ學良及安福派等ヨリ迫害ヲ受クル惧アリ身邊ノ不安ヲ感スルニ付當分廣大方面ニ移居シタキ旨」申出アリ司令官ハ自重ヲ促シ置キタルカ幕僚トシテハ此際日本内地ニ赴カルコト然ルヘシトノ意向ナリトテ本官ノ意見ヲ實シタルニ付本官ハ事變發生以從嚴重ナル警護ヲ爲シ居ルヲ以テ何等危險アリトハ認メス且請殺ノ關係上司令官同様帝ノ隱忍自重ヲ望ム旨述ヘ置タト共ニ一層警衛ヲ嚴ニシ置キタルカ尙繼振玉カ關東軍ノ瞭解アリト稱シ意及徐良等ヲシテ帝ヲ連レ出サシメンコトヲ畫策シ居ルヤノ疑アリ右親

外務省

6 1.6.2.0 - 2

436

副

外務省

シ結果改メテ土肥原大佐ニ右任務ヲ託スルコトナリ岡大佐ハ浪人
大谷猛ヲ伴ヒ廿六日夜私カニ當地出發大連經出入洋ニ向ヘリ（大連
ヨリ浪人工藤三郎ヲ同行スルヤモ知レス）天津着ノ上ハ何ント
適當ノ方法ヲ講シテ計畫實行ニ移ル管崗先日本件聯絡ノ爲駐屯軍三
浦參謀來訪セリ云々
大臣、支、北平へ轉電セリ

S 1.6.2.0-2

440

副

外務省

第 號
在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛
奉天 昭和六年十月廿七日發
同 六年十月廿七日後着
電信第一一二二號（暗、部外秘）
本官發天津宛電報
第一七號
謝介石廿七日來訪シ左ノ通内話セリ
關東軍參謀中ノ一部ハ最初難振玉ヲ利用シ宣統帝ヲ滿洲ニ伴ヒ出サ
ント試ミタルモ香榭天津駐屯軍司令官カ帝ニ對シ自重ヲ勸メタル等
ノ事情ニ依リ帝ニ於テ反感ミセラレ計畫挫ラサリシ爲其後浪人上角
某ヲ天津ニ派遣シ急進的ノ意見ヲ有スル酒井大隊長ト打合セ帝ヲ盜
ミ取り塘沽ニ伴レ出シ貨物船ニ乗セ營口ニ上陸セシメント企テタル
モ帝ノ住宅ニ於ケル日本警察側ノ監視嚴重ナル爲其目的ヲ果ササリ

S 1.6.2.0-2

439

REEL No. A-0872

0072

アジア歴史資料センター

第 號

在北平矢野參事官ヨリ幣原外務大臣宛

北平 昭和六年十月廿七日後發

同 六年十月廿七日後着

電報第五八九號（略）

廿六日當地軍側カ奉天ヨリ歸平セル某軍人ヨリノ聞込トシテ館員ヘ
ノ内話左ノ通關東軍ハ滿洲新政權カ少クトモ二三年間ハ樹立セサルヘキヲ見越シ
鐵道問題ニ着手シ既ニ吉林熙洽トノ間ニ吉會鐵道敷設ノ調印ヲ了シ
右工事ニ移レル一方 海吉海四洮打通等各線ノ貨物ヲ全部滿鐵ニ吸
收中ナル爲最近滿鐵ハ莫大ナル利益ヲ擧ケツツアリトテ現在ノ駐兵
費ハ充分償フヲ得ヘク軍部トシテハ支那本部ニ於ケル經濟勢力ヲ失
フトモ兩三年間滿洲ニテ現狀ヲ續クルニ於テハ右損失ヲ充分取返シ
得ヘシトナシ居リ又宣統帝擁立等ハ一部ノ策動ニ過キス軍トシテハ

外 務 省

S 1.6.2.0-2

441

斯ル無力者ヲ斥ケ學良勢力ヲ驅逐シ得ル實力者ヲ擁シ立テントスル
意圖ナルカ如シ云々尙本件ニ關シ廿七日ノ北平晨報ハ十八日午後三時熙洽ハ多門司令官
矢野警備司令官大谷憲兵司令石射總領事等ヲ招待ノ席上ニ於テ左記

三項ニ關スル正式秘密調印ヲ了セル趣報道セリ

（一）三ヶ月内ニ吉會鐵道ヲ完成スル事トシ教化延吉兩地ヨリ同時ニ工
ヲ起シ複線トスル事

（二）日本ハ吉林全省ノ土地ニ付指定購買權ヲ有スル事

（三）吉林長春ニ於ケル商埠地ヲ永久租借スル事

支、南京、奉天、吉林、哈爾濱、間島、天津へ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.2.0-2

442

第 號

在北平矢野參事官ヨリ幣原外務大臣宛

北平 昭和六年十月二十八日後發

同 六年十月二十八日後着

電信第五九四號（略）

二十八日公安局秘書キツセイアン（旅人）カ極秘トシテ原田ニナセ
ル内話

奉天事件發生後平津及奉天方面ノ有力ナル旅人ハ南京政府部内ノ
旅人ト密ニ聯絡シ宣統帝擁立ニ付劃策中ノ處和平會議ノ前途望ミ薄
キヲ見越シ漸次具體的進行ニ移ルニ決シタルカ右ハ先ツ日本ノ了解
ヲ得テ兵ヲ滿洲ニ移シ置キ舊臣其他ノ支持者カ帝擁立ノ宣言ヲ發シ
次テ帝ヨリ民國二十年開ノ失政ヲ述ヘ清朝發祥ノ地ノ危殆ニ顧セル
ヲ坐視スルニ忍ヒス已ムナク起チタル所以ヲ述ヘタル獨立宣言ヲ發
シ滿蒙王國ヲ樹立セントスルニアリ

外 務 省

S 1.6.20-2

443



右實行ハ勿論日本ノ同意ナクシテハ不可能ノ事ナルカ日本ノ爲ヨ
リスルモ聯盟ヨリ撤兵ヲ迫ラレ居ル此際速ニ敢運動ヲ容認シ（表面
内政不干渉ヲ標榜スルハ當然ノ義）略ニ援助ヲ與ヘ速ニ新政權ヲ出
現セシメ之ニ治安ヲ委任シテ撤兵シ聯盟干渉ノ口實ヲ失ハシムルト
共ニ右計畫發展ニ依ル内政上ノ變化ヲ待チ徐ニ第二段ノ措置ニ出ツ
ル事得策ナルヘシ

右計畫ヲ探知セル南京政府ハ帝力起立シタル際ノ民心ノ歸趨ヲ顧
慮シ急遽帝ノ許ニ人ヲ派シ優待辦法復活ト在北平旅人救済機關タル
工場ノ設立方ヲ申入レタル事實アリ云々（新聞發表見合ヲ請フ）
因ニ二十八日大公報ハ上海特電トシテ政府ハ日本ノ滿蒙獨立運動ニ
對シ帝力之ヲ拒絶セラレタルヲ多トシ同帝ニ對シ帝ノ上海又ハ北平
ヘノ移住ヲ慫慂シ帝カ同意セラルルニ於テハ移住ノ費用ハ勿論毎月
ノ經費モ今後政府ニ於テ負擔スヘキ旨申入レタル趣報道シ居レリ
支、南京、廣東、天津、奉天、哈爾濱ヘ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.20-2

444

4-1-208

第 號

在天津榮局通領事ヨリ附原外務大臣宛

天津 昭和六年十月廿八日後發

同 六年十月廿八日後着

電信第四四三號（略、部外秘）

奉天發本官宛電報第一七號ニ關シ

(一)上月利一カ奉天特務機關ヨリ二千圓ヲ支給セラレ北方實力派ト稱

絡ノ爲ト稱シ本月十日頃瀋陽參謀ヨリ三浦參謀宛紹介ノ名刺ヲ携ヘ

來津シ濟南ニ同ヒタルコト（當館ニ於テハ嚴重取調タルモ本件ニ關

係アル形跡ナカリキ）

(二)工藤モ直統帝運出シニ幾分關係アルコトハ本官江口副總裁ヨリ聞

込ミタルコトアリ

(三)三浦カ本官ト關係シテ奉天ニ赴キタル事實アルコト並ニ屢々電報

セシ事情等ヨリ察シ謝ノ内話ハ相當根據アルモノト察セラル

外 務 省

S 1.6.2.0-2

445

面シテ關東軍部内ニ於テ復讐熱アルハ既電ノ通ニシテ貴電第六四四
號ノ如キ訓令カ果シテ關東軍及當地駐屯軍ニ到着済ナルヤ將又右訓
令中ニ復讐運動ニ關シテモ明ラカニ指令シアルヤ付テハ疑無キヲ
得ス又香椎司令官ニ於テモ帝ノ出盧ニ對シ絕對反對スル次第ニモ非
サルヲ以テ或ハ土肥原來津ノ結果瀋陽ニ於ケル準備整ヒタルヲ理由
トシ帝ノ運出シニ關シ本官ノ諒解ヲ求ムルコト無キヲ保シ難シト考
ヘラル、

外 務 省

S 1.6.2.0-2

446



公使、奉天、北平へ轉電ナリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

448



4-1-209

第 二 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十月二十八日後發
同 年十月二十八日後着

電信第四四三號（略）

卑見ニ依レハ滿洲ノ治安回復ニハ北方政權ノ確立ヲ要シ之カ爲ニハ
學良ノ下野ヲ前提トスル次第ニシテ學良カ現有勢力ヲ保持スル限リ
新舊何レノ派ヲ出ハス何人ト雖モ東省ニ於テ政權ヲ確立スルヲ得ス
又未タ復辟運動ノ見込立テタリトハ見受ケラレス從テ此際帝ノ出處
ハ帝自身ノ爲ニモ取ラサル所ニシテ目下ノ急務ハ寧ロ學良ノ地位ヲ
如何ニシテ覆スヤニアリト認ムルニ付テハ貴領館七二號御訓令ニ依
リ今後モ極力帝ノ出處ヲ阻止シタキ意向ナルカ萬一關係各方面ト御
協議ノ結果既定ノ御方針ニ變更アルニ於テハ折返シ承知致度ク何分
ノ儀御同電相成度シ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

447



外務省

放セシメ次イテ彼ハ四名ヲシテ数日中ニ五十萬元ヲ調達セシメ之ヲ
差當リノ運動費トシテ入關シ來レル次第ナリ(一部外極秘)
支、東京、廣東、奉天、哈爾濱、天津へ轉電セリ

S 1.6.2.0-2

450



4-1-212

第 號

在北平矢野參事官ヨリ幣原外務大臣宛

北平 昭和六年十月廿九日後發

同 年十月三十日前着

電信第五九六號(暗)

往電第五九四號ニ關シ

廿九日吉世安カ原田ニ爲サル内話

復辟運動ノ中心人物ハ湯玉麟、張作相、榮源、羅振玉、凌印清ノ

五人ニテ目下秘密裡ニ閩海韓等ノ引込運動ニ從事中ナリ

凌印清ハ有力ナル滿洲局賊ノ大頭目ニテ嘗テ張作霖ニ反對シ張ノ

暴死ニ際シ首謀者ハ自分ナリト聲明シ引續キ蔣介石及學良ニ反對シ

來レル人物ナリ凌ハ今同本庄司令官ニ對シ宣統帝擁立ノ承諾ト之カ

費用ヲ要求セル處同司令官ハ金一萬圓ヲ投出セル處凌ハ其少額ニ承

服ヤス遂ニ同司令官ヲシテ奉天監獄入監中ノ凌ノ部下頭目四名ヲ釋

外務省

S 1.6.2.0-2

449



4-1-217

第 二 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十月三十日後發
同 年十月三十日後着

電信第四四九號（暗、極秘）

往電第四四三號ニ關シ

昨日郵垂カ極秘ノ含トシテ内話セル處左ノ通

最近本庄司令官ヨリ宣統帝ニ寄セラレタル親書ニ依レハ滿洲ニ於ケル諸般ノ狀況未ダ混沌タルモ何レ萬端ノ準備成リタル上ハ外務省トモ打合ノ上内田總裁カ皇帝ヲ出迎フ事トナル等ニ付夫迄如何ナル策動ニモ懸ハサレス自置セラレ度キ旨申越セル趣ニテ帝ハ之ヲ深ク信賴シ總テ時機ノ熟スルヲ期待シ藩付居ラルル近況ナリ

支、北平、奉天へ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.2.0-2

451

4-1-218

第 二 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十月卅日後發
同 六年十月卅日後着

電信第四五〇號（暗）

北平發大臣宛電報第五九四號末段ニ關シ

鄭垂ノ談ニ依レハ廿七日頃中央監察院委員高友唐皇帝ヲ訪問シ日本ノ滿蒙獨立運動ニ對シ帝力毅然トシテ拒絕セラレタルヲ德トシ此際上海若クハ北平露國公使館ニ移轉セラレルニ於テハ國民政府ヨリ毎月二萬元經費ヲ支出スヘキ旨申入タルニ對シ帝ハ目下外患内災緊急ナル時ニ於テハ中央カ一介ノ平民ヲ顧念スル要無ク可ク宜シク全國民ノ安住ニ盡サレタリト拒絕セラレタル趣ナリ

支 北平 奉天へ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.2.0-2

452



4-1-219

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十月三十日發
同 年十月卅一日前着

電信第四五三號 (至急、郵外極秘)
往電第四三三號ニ開シ

三十日午後先方ノ求メニ依リ司令官岡田ニテ土肥原ト會見シタルカ
其談ニ依レハ黃金鑑、照治、張海鵬、馬占山等ニ於テ地方政權樹立
ニ努メ居ルモ如何トモスルヲ得ス依テ何レモ宣統帝ノ出處ヲ切望シ
而モ帝以外ニハ適當ノ人物ナシトノ意見ナルヲ以テ我方トシテハ此
機運ヲ利用シ新政權ノ確立ヲ計ルコト治地維持從テ現地撤兵實行上
ヨリ見テ急務ト認メラルノミナラス新クシテ獨立國家ヲ成立セシ
ムルコトハ國策上絕對必要ナリト存ス理想論ヨリセハ或ハ時機尙早
トモ考ヘラルヘキモ歴史的ニ關係深キ帝ヲ棄出スハ一般輿論ヲ

外務省

S. 1.6.2.0-2

454



4-1-220

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十月卅一日前發
同 年十月卅一日前着

電信第四五三號 (略、至急極秘)

土肥原ハ廿九日來津シタルカ同伴者ハ鳳某 (往電第四五一號馬延驤
ノ釋放運動ヲナシタル人物ニシテ馬ハ同人ノ親戚ヲ待テ活動ヲナ
ス管ナリト) ノミニテ浪人壽同キス尙ウエズミハ當地ニ潛伏シ居ル
模様ニ付影査中ナルカ雖振玉ト關係アルカ如シ
駐屯軍ヨリ土肥原ノ件ニ付テハ中央ニ電報セサル様申入レアルニ付
御含アリタシ
支、奉天、北平ヘ轉電セリ

外務省

S. 1.6.2.0-2

453



要望スル現在ヲ措キテ他ニ機會ナカルヘシトノ趣ニキテ就テハ帝カ
自發的ニ脱出サレタル形式ヲ取リ浪人ヲシテ然ルヘク速出サシメタ
キニ付本官ノ瞭解ヲ得タシトノ申出アリ司令官亦之ニ賛意ヲ表シ實
任ハ自ラ負フモ差支ナキ意圖ヲ漏シタルカ本官ハ豫テ訓令ノ次第モ
アリ(關東軍ニハ日本人カ新政府成立ニ關與スヘカラサル旨簡單ナ
ル訓令アリ駐屯軍ヘハ其歸來レル由)又善後ノ責任ヲ負ヒ事變以來
特ニ警戒ヲ嚴ニシ居ル立場上何レ考慮ノ上返事スヘキ旨ヲ答ヘ置キ
タリ

滿洲ノ實狀如何又民衆カ果シテ帝ヲ要求シ居ルヤハ當地ニ於テハ明
カナラサルモ當方ノ情報及土肥原ノ談ニ依リ判斷スルニ帝ノ出度ヲ
利用セントスルニ止マルヤニ思料セラレ從テ斯カル事態ニ於テ帝自
身カ乘出スヤ否ヤハ第一ノ問題ナルカ(往電第四四九號參照之)要
スルニ帝ハ日本政府ノ支持アル場合ハ軍艦ニテ護送セララルモノト
信シ居ラルルカ如シ)此際出度セララルト假定スルニ究竟ノ目的カ

外
務
省

0.9

S 1.6.2.0-2

455



滿洲ノ獨立ニアルヤ否ヤニ拘ラス支那本部ニ於ケル各派ハ一致之ニ
反對シ國內ノ紛糾ヲ直ニ對外問題ニ轉スルニ至ルヘク或ハ聲明トノ
聯繫ノ俱モナシトセス尙國際的ニ機微ナル關係ヲ生スヘキハ勿論ニ
シテ本官トシテハ少クモ學識カ名實共ニ滿洲ト關係ヲ斷ツカ或ハ
今少シク滿洲ノ地方政權ノ形勢變ハリ帝ニ要望スル輿論起ル等ノ場
合ニ至ル迄右申出ヲ拒ケ浪人ノ策動ノ如キハ訓令ニ依リ取締ヘタ
キ意圖ナルカ右ニ關スル政府ノ御方針至急同電相成度シ尙土肥原ノ
申出ハ本庄中將ノ瞭解ヲ得タリヤニ付テハ懸ト質問ヲ避ケタリ
支、北平、奉天ヘ轉電セリ

外
務
省

0.9

S 1.6.2.0-2

456

4-1-222

第 號

幣原外務大臣ヨリ在天津桑島總領事宛

本省 昭和六年十一月一日后發

宣統帝ノ獨立運動關係

電信第八一號(略、至急極秘)

貴電第四五三號ニ關シ

今次事件ニ關シ支那側トノ交渉ハ容易ニ進捗セサルヘク從テ並當
リ我方トシテハ滿洲各地ニ於ケル治安維持機體ノ内容ヲ充實シ與
地地方モ漸次其ノ手ニ依リ收拾セラルヘキコトヲ希望スルト共ニ
從來蹂躪セラレタル我權益ノ確保ニ付テハ支那人側トノ商取引ノ
事實問題トシテ滿鐵等ヲシテ可然實行セシムル外ナク而シテ時日
ノ経過ト共ニ漸次此等自治機關發達シ其ノ聯合成立スルトカ又ハ
統轄者ヲ選出スルトカ云フ方法ニテ全部ノ經リヲ見ルコト自然ノ
行方ト思考シ居ル次第ナリ(支那側トノ交渉ニ依リ我方ノ希望ス

外 務 省

S 1.6.2.0-2

457

送付



ルカ如キ事案ヲ出現セ得ハ固ヨリ之ニ過キタルコトナシ
然ルニ此ノ際滿洲ニ獨立國ヲ形成スルカ如キハ直チニ華府九國條
約第一條第一項無効ノ問題ヲ生シ必スヤ米國其他九國條約調印國
ノ間ニ重大ナル紛議ヲ生スヘク(此點ハ中央軍部ニ於テモ首肯シ
居ル所ナリ)又宣統帝ノ出直ハ直チニ獨立國ノ建設ト關係ナシト
スルモ外部ニテハ我方ニ於テ滿洲獨立國ヲ計畫シ居ルモノト見ル
ヘク(同帝カ自發的ニ脱出セラレタル形式ヲ執ルトスルモ外部ニ
テハ容易ニ之ヲ信セサルヘク又斯種事件ノ真相ヲ秘密ニ附スルコ
トハ極メテ困難ナリ)何レノ論此ノ際同帝ノ選出ハ十一月十六日
理事會開會ヲ控ヘ又々世界輿論ノ激昂ヲ來シ我方ニ取リ極メテ不
利ナル狀況ヲ展開シ今後世界輿論ノ傾斜ニ伴ヒ次第ニ現地ニ於ケ
ル建設的方面ノ仕事ニ事實上取掛ラムトスル我方折角ノ計畫ニモ
多大ノ支障ヲ生スヘシ

又現今滿洲住民ノ殆ト全部カ漢民族ナルコトニ順ミ宣統帝ノ獨立

外 務 省

S 1.6.2.0-2

458

第

號

幣原外務大臣ヨリ在天津桑島總領事宛

本省 昭和六年十一月一日后發

宣統帝ノ獨立運動關係

電信第八一號一附、至急極秘

宣統第四十三號ニ附シ

今次事件ニ關シ支那側トノ交渉ハ容易ニ進捗セサルヘク從テ差當
リ我方トシテハ滿洲各地ニ於ケル治安維持機關ノ内容ヲ充實シ奧
地地方モ漸次其ノ手ニ依リ收拾セラルヘキコトヲ希望スルト共ニ
從來以來セラレタル我利益ノ確保ニ付テハ支那人側トノ商取引ノ
事實問題トシテ滿鐵等ヲシテ可然實行セシムル外ナク而シテ時日
ノ經過ト共ニ漸次此等自治機關發達シ其ノ聯合成立スルトカ又ハ
統制者ヲ選出スルトカ云フ方法ニテ全部ノ統一ヲ見ルコト自然ノ
行方ト思ヒ居ル次第ナリ一支部側トノ交渉ニ依リ我方ノ希望ス

S 10000-2

457

ルカ如キ事態ヲ出シ得ハ固ヨリ之ニ逆キタルコトナシ

然ルニ此ノ際ニ於テ獨立運動ヲ形成スルカ如キハ直チニ華府九國條
約第一條一項規定ノ問題ヲ生シ必スヤ米國其他九國條約印
ノ間ニ重大ナル紛糾ヲ生スヘク一此點ハ中央軍部ニ於テモ首肯シ
居ル所ナリ一又宣統帝ノ出處ハ直チニ獨立國ノ建設ト關係ナシト
スルモ外部ニテハ我方ニ於テ滿洲獨立國ヲ建設シ居ルモノト見ル
ハク一同等方自發的ニ脫出セラレタル形式ヲモルトスルモ外部ニ
テハ容易ニ之ヲ信セサルヘク又其種事情ノ真相ヲ秘密ニ附スルコ
トハ極メテ困難ナリ一何レノ途此ノ際同帝ノ連出ハ十一月十六日
理會會議ヲ持ヘ又々世界輿論ノ激甚ヲ來シ我方ニ取リ極メテ不
利ナル狀況ヲ展開シ今後世界輿論ノ鎮靜ニ伴ヒ次第ニ現地ニ於ケ
ル建設的方面ノ仕事ニ事實上取掛ラムトスル我方折角ノ結果ニモ
多大ノ支障ヲ生スヘシ

又現今滿洲任民ノ殆ト全部カ漢民族ナルコトニ願ミ宣統帝ノ獨立

S 10000-2

458

外務省

副

4-1-229

第

號

在上海村井總領事ヨリ附原外務大臣宛

上海 昭和六年十一月二日後發

同 六年十一月二日後發

電信第七六一號(略)

二日ノ當地與字新聞ハ日本側ハ東三省ノ獨立ヲ煽動シ恭親王ハ既ニ一切ヲ承諾セルモ宣統帝ハ峻拒シ居ル爲メ土肥原大佐ハ秘密裡ニ來津スルコトトナリ廿九日大連ヨリ大沽ニ着シ日本側ハ小蘇氣ヲ派シ入津セシメ目下極秘裡ニ種々ノ手段ヲ用ヒテ宣統帝ヲ奉天ニ送レ出サント密策中ナルモ皇帝ハ依然拒絕セラレツツアル爲日本側ハ脅迫手段ニ出テ居ル旨ノ天津來電ヲ掲載セリ
公使ヘ轉電シ天津、北平、奉天、南京ヘ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

460

ハ滿洲自身ニ於テモ不評判ナルヘク況ヤ其ノ支那本部及世界各國ニ與フル影響ハ反革命、反民主主義陰謀等ノ標語ノ下ニ觀察ニ余リアル次第ニシテ斯クテハ日支ノ了解ハ將來永久ニ不可能トナルカ如キ事態ヲ發生スヘシ何レニスルモ宣統帝擁立ノ如キハ益ク時代錯誤ヲ計畫ト申ス外ナク右ハ將來ニ於ケル帝國ノ滿蒙經營ニ對シ重大ナル禍根トナルノ虞アリト存ス
將又本大臣宛奉天發電報第一〇一六號觀照業ハ目下本邦ニ滞在シ各方面ノ意向ヲ探リ居ル模様ナル處何レノ向モ反對ノ氣配強キモノノ如ク現ニ兩陸軍大臣モ反對ノ意向ヲ有シ又板西中將モ對ニ對シ本件ノ時代錯誤ナルコトヲ説示シ同帝ノ自重ヲ求メタル趣ナリ
就テハ敍上ノ次第御含ノ上本件宣統帝連出計畫ヲ中止セシムル様極力御努力相成ル一方可然方法ニテ同帝ニ對シ切實方自重方ヲ申入レラルト共ニ警戒方此ノ上共御注意相成度
在支公使、北平、奉天ニ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

459

副

外務省

記實電ノ如キ方針ニ付何等一インプレス一シ在ラサルヤニ認メラル
ル處斯ノ如キ事類ニ於テ單ニ外務省出先官意ヲシテ宣統帝ニ對スル
目重勸告ヲハ出先軍調說得等ノ適當リノ措置ノミニ努メシムルモ徒
ラニ出先軍調ノ難ヲ甚タシカラシムルニ留マリ到底所期ノ效果ヲ
收メ難ク結果ハ所謂既成事實ニ引摺ラルルニ終ラン事畢後當初以來
ノ諸事列ト同様ナルヘキヲ慎ル就テハ貴電ニ依レハ兩陣相モ本件運
動ニ反對ノ趣ニモアリ早キニ應ミ本件ニ關スル調議ヲ決定シ中央軍
部ヨリ出先目意ニ對シ嚴重ナル訓令ヲ發セシムル機調取計ヒアラン
事ヲ切實ニ堪ヘス
支、天津へ特電セリ

9.9

S 1.6.2.0 - 2

462

副

4-1-234

第

號

任奉大總統詔事ヨリ帝原外務大臣宛

奉天

六

昭和九年十一月三日午後發

同、年、月、日、午後發

電信第一一七六號（部外極秘）

天津宛貴電第八一號ニ關シ

陸軍萬軍側ノ行動ヲ見ルニ中央ノ意圖必シモ當ニ出先ニ反映セス、
東軍亦懷中ニハ所謂既成事實ヲ押付ケ中央ヲ引摺ラントスルノ傾向
依然盛ナルモノアリ、本件宣統帝擁立運動ニ付テモ最近土肥原ノ天津
行ト共ニ更ニ著シキモノアリ彼等ハ其意圖、照合、成海關等ヲ中心
トスル起万政權樹立計畫意ノ如ク進歩セサル此際宣統帝ノ出處ニ依
リ現狀ヲ打開セント目論ミ居ルモノノ如ク右ニ對シ貴面ハ兎ニ角内
心軍司令官等ニ於テ果シテ往電第八四八號當時ノ意見ヲ持シ居ルヤ
疑ヒナキハハス面モ本件ニ關シテハ中央軍部ヨリ出先軍調ニ對シ訓

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

461

第

號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月三日後發

同 六年十一月三日後着

電信第四六〇號（暗、至急、極秘）

二日館員ヨリ不取敢土肥原ニ對シ貴電第八一號ノ趣旨ニ依リ夫々
說得ニ努メタルカ先方ノ言ヒ分ハ（一）最近張蔣ノ團結堅ク張學良沒落
ノ見込少キニ至レルヲ以テ熙洽ヲ除ク滿洲現地方政府ハ愈舊政府ニ
氣兼シ之ト機脈ヲ通スルコトトナルヘキ結果政府ニ於テ豫期セラル
ルカ如キ事態ノ自然的發展ハ到底望ミ無キコト

（二）日本カ帝ノ連出シニ無關係ナルヲ裝フ爲ニハ營口ニ上陸セシムル
要アル處時日遷延セハ同港ハ結氷スヘキコト

（三）奉天ヨリ現ニ金梁來津シ居ルニ付同人カ帝ヲ迎ヘシ旨宣傳シ得ル
コト

外務省

S 1.6.20-2

463

（四）當地ヨリ支那汽船ヲ僱船使用スル關係モアルコト

（五）滿洲ニ於ケル支那人間ニ本件ニ關スル聲少キハ本人ノ決心如何ヲ
氣遣ヒ又日本側ニ對スル遠慮ニ依ルモノナルコト從テ帝ニ於テ身命
ヲ賭スル覚悟又直ニ渡滿ノ決意アリ其方法アルコト判明セハ支那側
ノ輿論ヲ高メシメ帝ヲ迎フル聲明書ヲ發表セシムル等表面上支那側
ノ運動タラシメ得ヘキコト等ヲ述ヘタルヲ以テ館員ヨリ特ニ國際關
係及支那本部トノ關係ニ付重ネテ注意シ尙私見トシテ僞令露ノ出處
カ滿洲ニ於ケル支那側ノ要望ナル旨宣傳シ得ルトシテモ十六日ノ聯
盟理事會ノ結果ヲ見ルコト望マシク又事實支那人ノ要望アリ且充分
ノ手配ヲ爲シ得ル場合ハ上陸地カ營口ナリヤ大連ナリヤハ問題ナラ
サルヘク尙同人ノ來津ハ既ニ周知ノ事實ナルニ付少クトモ此際ハ計
畫ヲ中止スル模範告シタルモ同人ハ聽入ルル模様無ク結局帝ノ意圖
ヲ確メタル上若シ此際危險ヲ冒シ乘出ス決心ナキコト判明セハ帝ニ
對シ再ヒ機會無キ旨捨台詞ヲ進ヘ引取り且ツ奉天軍部ニ對シ本計畫

外務省

S 1.6.20-2

464

54

4-1-231

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月三日午後發
同 六年十一月三日後着

電信第四六一號 (主急、極秘、暗)
往電第四六〇號ニ關シ

谷亞細亞局長へ

土肥原ハ館員ニ對シ滿洲ノ事態ヲ現況迄清付ケタルハ一ニ出先ノ軍
部ノ活動ニシテ今後ニ於ケル收拾上是非共帝ノ擁立ヲ必要トスル場
合若シ現政府力之ヲ阻止スルカ如キ態度ニ出ツルハ奇怪千萬ニシテ
果シテ然リトセハ或ハ關東軍ハ政府ト離レ如何ナル行動ニ出ツルヤ
モ保シ難ク又内地ニ於テモ目下拘禁中ノ暗殺計畫者以外ニ更ニ由々
敷事態ノ發生スヘキヲ恐ル此際政府ノ方針ノ如キハ問題ニアラス若
シ帝ニ於テ出處ノ決心アラハ極道ニ依リテモ速レ出スヘシト教團キ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

465

54

ノ見込無キヲ以テ別途ノ方法ヲ考究ヲ要スル旨電報スル外無シト述
ヘタル由
又、北平、奉天へ轉電セリ

は(ト)

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

465

REEL No. A-0872

0085

アジア歴史資料センター

副

4-1-232

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月三日發

同 六年十一月三日發着

電信第四六二號 (至急極秘、略)

往電第四六〇號ニ關シ

同人ハ二日夜帝ニ會見シタルカ三日歸垂ノ内話ニ依レハ同人ヨリ滿洲事應並ニ此ノ機會ヲ進セス十六日以前ニ是非共渡滿アリタキ旨並ニ然ル場合ハ日本ハ直ニ帝ヲ主班トスル獨立國家ト秘密政守同盟ヲ結フヘク又聯盟ノ干涉モアリ獨立宣言ノ翌日ヨリ撤兵スヘク萬一關内等ヨリ出動スル向アル時ハ關東軍ニ於テ之ヲ擊破スル等充分援助ノ方法ニ出ツヘシ尙獨立ナラハ相當ノ財源自由トナルヲ以テ作相始メ關内分子ノ懷柔ニモ當リ得ヘシ將又我皇室ニ於テモ帝ノ再起ニ對シテハ歡迎セラレ居ル趣(ヲ)述ヘタルヲ以テ帝ノ意志大イニ動キ

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

468

副

タル由ナルカ同人カ朝鮮總督ト密接ナル關係アルハ御承知ノ通ニシテ今次ノ事變前趙欣伯カ奉天派ヲ壓倒スル要アル處日本有力者ニ内話シタキ旨同人ニ申出テタル際直ニ總督ヲ紹介シタルカ如キハ(世一日各同人ノ直話ニ依ル)之カ難點ニシテ又現ニ本庄司令官カ同人等ヨリ總領事ノ瞭解ヲ求メラレタル際單ニ事ヲ無ラサル様スヘキ旨注意スルニ止メ(二日同人ノ談ニ依ル)而モ一方ニ於テ往電第四四九號ノ如キ處置ニ出テタルコトハ司令官スラ右有力ナル背景ヲ適應シ居ルモノト見ルノ外ナク從テ當地ニ於ケル中止勸告ノ如キハ末節ノ問題ニシテ殆ト效果ヲ期待シ難シト認メラル尙帝ニ對シテハ側近者ヲ通シ重ネテ自重ヲ促シタルカ此上如何ナル程度ニ話スヘキヤ御指示ヲ請フ

公使、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

467

4-1-233

第 號

在天津染島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月三日發

同 六年十一月三日發着

電信第四六三號（暗、至急極秘）

往電第四六二號ニ關シ

郵垂ヲシテ一層自重方申入レシメ置キタルカ同人ノ内話ニ依レハ宣
統帝ハ商街。處ナル者ヲ東北ニ遷移シ各將領ノ内意ヲ探ラシメタル處
張作相ハ東北ニ在ル私財ノ保全ヲ得ハ帝ノ出處ヲ歡迎スル真意ヲ滿
シ湯玉驛ハ元來復辟黨ニテ反對ナク張海驍軍ハ其一部ヲ除キ他ハ悉
ク異存ナク照治、張景惠、馬占山等實力ヲ有スルモノハ何レモ帝
立ヲ誓ヒ帝ノ即時渡滿ヲ熱望シ居ル旨復命シタルヲ以テ帝ノ心大イ
ニ動キタル折柄 金 キンリヨ 及土肥原ヨリ此機ヲ進セハ最好ノ時機ナ
シト進言シタル爲帝ハ意出馬ノ決心ヲ堅メラレタル模様ニシテ此上

外務省

S 1.6.2.0-2

470

タル模様ナルカ日本政府自体トシテ如何ナル程度ニ援助スル意向ナ
ルヤ又當地脱出ニ付如何ナル具体方法ニ依ルヤニ付詳細承知シタキ
旨申出テラレタルヲ以テ考慮ノ上回答方ヲ約シ引取りタル趣ナリ尙
同人來津ノ事實ハ三日ノ「スター」ニ報道アリ又同日公安局ヨリハ
本件並ニ反動分子煽動ノ使命ナル趣旨アル處事實ナリヤト照會シ越
セリ
支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0-2

469

4-1-238

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月四日前發
同 六年十一月四日後着

電信第四六七號（暗、至急、部外秘）

往電第四六三號ニ關シ

此ノ際適當ノ方法ニ依リ劉慶棠ヲシテ至急帝國政府ノ方針ヲ帝ニ進
言セシムルコト必要カト存セラル

公使、北平、奉天ニ轉電セリ

外 務 省

9.9

S 1.6.2.0-2

472

自重ヲ進言スルモ其效果無カルヘク又側近者ノ大部分モ之ニ賛シ居
レリトノ趣ニテ此際帝ノ自重ヲ促ス方法トシテハ御決心ヲ實行セラ
ルルトモ我方ハ隨從不干渉ノ方針ニ依リ援助スルコトナカルヘシト
進言スルノ外ナシト認メラルル處果シテ實效アルヤハ頗ル疑問ト存
ス尙三日司令官ヲ訪ヒ貴電第八一號ノ趣旨ニ依リ邦人ノ進出計畫ヲ
中止セシムルコト然ルヘシト懸談シタル處司令官モ之ヲ諒トシタル
カ内實土肥原力帝ノ意圖ヲ尋ネタルニ帝ハ特ニ出慮ヲ決心シ既ニ數
日前手荷物ノ一部ヲ佛租界ニ持出シ適當ノ機會ヲ待チ居ル旨内斷セ
ラレタル程ニテ土肥原自身モ寧ろ意外ナリシトノコトニテ此上ハ國
際關係上我方ニ不利ヲ招致スルカ如キコト無キ様考慮スルヲ要スト
語レリ

支、北平、奉天ニ轉電セリ

外 務 省

9.9

S 1.6.2.0-2

471

0089

REEL No. A-0872

アジア歴史資料センター

副

4-1-240

第 號

在北平矢野參事官ヨリ幣原外務大臣宛

北平 昭和六年十一月四日後發

同 六年十一月四日後着

電信第六〇七號（略）

四日ノ北平展報ハ天津特別通信トシテ土肥原大佐ハ二日金榮ト共ニ
來津宣統帝及日本總領事、軍司令官等ヲ訪問セルカ日本カ例帝ヲ迎
ヘ東北ニ明光帝國ノ建設ヲ計畫シ居ルコト略報實ナルカ如シ日本ハ
東北獨立ヲ企圖シテヨリ既ニ一ヶ月トナレルモ黑龍江ノ平定ナラス
シテ三省統一セス又獨立政権ノ領袖人物ナキ爲未タ成功スルニ至ラ
サル處新タニ人物ヲ養成スルコトモ容易ナラサルニ付宣統帝ヲ利用
セムトスルモノニテ右ニ對シテハ熊治、張海麟、張印清モ勿論反對
ニアラス云々ト報ス

在支公使、奉天、天津へ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.2.0 - 2

474

副

4-1-239

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月四日後發

同 六年十一月四日後着

電信第四七一號（略）

四日登世報ハ土肥原ノ秘密來津セルハ日本陸軍省ノ命令ニ依リ廢帝
傳ハ獨動シ東北ニ進出シ獨立政府ヲ組織セシメ及當地日本人ヲ使
喚シ華人ト事ヲ辨ヘシメ以テ不撤兵ノ口實ヲ作ルニ在リ廢帝ハ既ニ
赴奉ヲ拒絕シタルモ彼ハ種々脅迫手段ヲ用ヒ今ヤ帝ハ出發セサルヲ
得サル狀態ニ在リ云々ト大見出ニテ報シ居レリ

支、北平、奉天ニ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.2.0 - 2

473

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年十一月五日午後

同 六年十一月五日午後

電信第一二〇五號 (部外秘、略)

十一月五日軍司令官ト會談ノ際談及々新政權樹立ニ及ヒタルニ依リ復辟ニ關スル司令官ノ真意如何ヲ尋ネタルニ司令官トシテハ東省ノ各省政府未タ確立セサル内ニ宣統皇帝ヲ擁立スル如キハ時機尚早ナリト言フヘク自分ハ皇帝ノ出度ヲ急クヘカササル旨言テハ劉慶棠ニモ語リ天津軍ヘモ傳ヘ置キタリト述ヘタルニ依リ本官ハ復辟力今日ノ時勢ニ於テ時代錯誤ナルコトヲ説キ天津ヨリノ情報ニ依レハ土肥原大佐着津以來皇帝出度ノ意願ル動キツツアルカ如キ處將來皇帝ニ依リ東三省ヲ統治スルニハ素ヨリ我方ノ強キ支持アルニ非スンハ能ハス而シテ復辟ノ如キ時代錯誤ノ支持ニハ異常ノ犧牲ヲ拂フコトト

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

475

ナルヘク我日本トシテ最少ノ犧牲ヲ以テ最大ノ美果ヲ收ムルヲ得策トスヘク從テ此際皇帝ヲ利用セントスルカ如キコトハ出來ル丈之ヲ避クルヲ可トスル様思考スト述ヘタルニ司令官ハ自分ハ素ヨリ復辟ナラサルヘカラストスルモノニアラス唯民意ニ依リ將來ノ法律組織ヲ決定スヘシト爲スモノナルヲ以テ皇帝ノ出度ヲ急クヘカササル様注意シ居ル次第ナリト語リタルカ本日ノ會談ノ印象ニ依レハ司令官ハ土肥原等ノ計畫ニ全部賛成シ居ルヤ疑ナキ能ハサルモ他方又天津宛電信第八一號ノ御意見トモ一致シ居ラサルヤ見受ケラル

支、天津ヘ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

476

第 號

在天津榮島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月五日發

同 六年十一月五日發着

電信第四七二號（附、至急、外部極秘）

往電第四六三號ニ關シ

四日夜帝脱出ノ氣配アル旨警護者ヨリ報告アリシヲ以テ館員ヲシテ
 側近者ニ事情ヲ質サシメタル處甚タ舊蔵リ居リタルモ結局帝ハ必ス
 シモ帝位ノ稱呼ヲ望マス三千萬民衆ノ爲ニ萬難ヲ覚悟シ出度ヲ固ク
 決心セラレ居リ既ニ教甲車四モ確定シ機會ヲ待チ居ル次第ナルカ右
 決意ハ當地司令官ニ於テ帝出度ノ爲ニハ假令自己ノ職ヲ貽スルモ苦
 シカラサル意氣アル旨ヲ承知シ感激セラレタル結果ト認メラルル處
 尙軍備ノ希望ニ依リ領事館ニ對シテハ從來ノ關係ニ因ハレス乗船後
 通告スルニ止ムル方針ナリトノ趣洩シタルヲ以テ館員ヨリ内々ノ發

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

477

滿ハ國際關係上日本ノ迷惑トスル所ナルヲ以テ政府ニ於テモ帝ノ心
 情並ニ境遇ニハ同情シ居ルヘキモ蓋タ時機ニアラサル以上政府ハ必
 ラク不干渉主義ニ終始スルノ餘餘無キニ至ルヘシト思料スルニ付テ
 ハ改メテ帝ノ深甚ナル考慮ヲ求メ徒ニ血氣ニ逸リ僅ノ事ニ感動シ取
 返シノ付カヌ微目ニ留ル事無キ様救メラレ度キ旨申入レタリ折角先
 方ハ重ネテノ努力ハスヘキモ到底決心ヲ繼シメル見込ナキ由語レ
 趣ナリ
 支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

478

副

外務省

尙土肥原ニ關シテハ連日大袈裟ナル新聞記事現ハレ又五日公安局ヨリ退去斡旋方申出アリ折角帝國政府ニ於テハ帝ノ輕舉ヲ戒メ居リ且新聞報道ハ一切事實無根ナル旨公安局ヨリテ取消サシムル様打合済ナルカ何ノ途同人力至急離津スルコト絕對肝要ト認ムルニ付本人ニ對シテハ勸告中ナルモ政府ニ於テモ直ニ適當ノ方法ヲ執ラルル様致摩シ

支、北平、奉天へ轉電セリ

S 1.6.2.0 - 2

430

4-1-246

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津

昭和六年十一月五日發

同 六年十一月五日發着

電信第四七三號（暗、至急、部外極秘）

谷亞細亞局長へ

宣統帝ハ只管脱出ノ機會ヲ待チ居ル情勢ナルヲ以テ當方ニ於テハ一層警備ニ注意スル一方萬一不幸ニシテ其實行ヲ見ル場合右ハ當方勸告ヲ無視セル帝ノ自發的行動ナル旨ヲ明カニシ我方ノ國際的立場ヲ保持シ得ル方法如何ニ付考慮中ナル處帝ノ自由ヲ如何ナル程度ニ於テ實力ヲ以テ阻止シ得ルモノナリヤ殊ニ軍部ニ於テハ十六日迄ニ是非共連出シタキ無理アル以上右阻止ノ程度ニ依リテハ軍トノ間ニ實力衝突ノ虞ナシトセス就テハ此邊ノ事情モ御含ノ上今後ノ御方針ノ確立ニ資セラルル様致シタシ

外務省

S 1.6.2.0 - 2

479

REEL No. A-0872

0093

アジア歴史資料センター

4-1-251

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月五日發
同 六年十一月六日附着

電信第四七五號（暗）

五日ノ各漢字紙ハ土肥原ノ來津ハ（一）宣統帝ヲ誘惑シテ東北ニ於テ獨立政府ヲ組織スルコト（二）當地方各國領ノ形勢觀察（三）親日派ト接洽シ國內ノ擾亂ヲ希望スルコトニアリ第一ニ付テハ土肥原ハ日本領事後藤ノ紹介ニ依リ帝ニ面會シ日本領ニ於テ極力援助スヘキ旨告ケタルカ退位後ハ一平民トシテ何ノ望ナシト拒絕セラレタル爲余ノ言葉ヲ聽カサレハ恐ラク帝ニ不利ナルヘシ熱慮アレト言ヒ棄テテ引取レリ云々トノ記事ヲ掲ケタリ

支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.20-2

431

4-1-255

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月六日後發
同 六年十一月六日後着

電信第四七七號（暗、極秘）

前清内務府總監督。済。照。ハ宣統帝ノ内命ヲ受ケ滿洲ノ狀況觀察ノ爲六日塘沽發長沙丸ニテ大連經由奉天ニ赴ケルカ帝ノ渡滿準備ナルヤニ察セラル

支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.20-2

432

REEL No. A-0872

0094

アジア歴史資料センター

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月六日後發

同 六年十一月六日後着

電信第四七九號(略)

往電第四七五號及第四七三號後段ニ關シ

六日各漢字紙ハ左ノ如キ市政府ヨリ新聞社宛校正申入文ヲ發表セリ

五日日本領事後藤來訪シ土肥原ハ日本領事ノ紹介ニ依リ宣統帝ヲ誘

惑ス云々ノ支那新聞記事ハ全然虛偽ニ屬シ

(一) 本領事ハ絕對ニ同人ヲ紹介シ傳達ニ會見セシメタル事實無シ

(二) 日本政府又傳達ヲ赴奉セシムル計畫斷シテ無シ

(三) 日本領事館ハ屢々政府ノ命令ニ依リ傳達ノ難律ヲ勸阻シ誤解發生

セサル様努メ居ル旨聲明セリ依テ該記事ヲ校正アリ度シ

尙五日「スター」記者來館シ質問往電記事ニ關シ尋ネタルヲ以テ館

外務省

S 1.6.2.0-2

483

員ヨリ總テ「ノンセンス」ナリト述ヘ置キタル處六日會見談トシテ
土肥原來津ノ事實無キ旨報道セリ
支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0-2

484

副

スル様極力御盡力相成度
別電ト共ニ支、奉天へ轉電セリ
別電ト共ニ北平ニ轉電アリ度

外
務
省

S 1.6.2.0 - 2

486

副

4-1-249

第 號

幣原外務大臣ヨリ天津桑島總領事宛

本省 昭和六年十一月六日後發

宣統帝擁立運動

電信第八三號(暗至急秘)

(部外極秘)

往電第八一號ニ關シ

本件ニ關スル政府ノ方針ハ右往電ト何等ノ變更ナキ次第ナルヲ念ノ
爲過日來陸軍側ト内密ニ協議ノ結果陸軍大臣ヨリ關東軍司令官ニ封
シ此ノ際滿洲新政權問題ニ付行過キタル行動ニ出テサル様電報セル
越ナルカ尙本六日更ニ出先ノ運動ヲ緩和スル爲小磯軍務局長ヨリ板
垣參謀ニ封シ別電第八四號ノ通り電報セル趣ナリ(右二電ハ支駐
屯軍へ轉電シアル由)
就テハ右御言ノ上引續キ冒頭往電ノ趣旨ニ依リ宣統帝ノ連出ヲ阻止

外
務
省

S 1.6.2.0 - 2

485

副

4-1-35

昭和6 一八五六八 暗

天津 本省

十一月七日後發

幣原外務大臣

桑島總領事

第四八一號

六日午後七時頃趙欣伯ノ名刺ヲ添ヘ果物二籠(夫々手擲彈一枚ノ物一個ヲ隠サレアリ)、「ビスケット」等ヲ宣統帝屋敷ニ届ケタル者アリ右使ノ支那人「ボーイ」ハ佛國工部局ノ爲逮捕セラレ目下何人カ依頼シタルカ取調中尙手擲彈ハ駐屯軍ニ於テ鑑定中ナリ詳細追報ス公使、北平、奉天、濟南、青島へ轉電セリ公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

外務省

9.5

S 1.6.2.0 - 2.

488

副

4-1-250

第 號

幣原外務大臣ヨリ在天津桑島總領事宛

本省 昭和六年十一月六日後發

電信第八四號(暗 極秘)

宣統帝獨立運動

宣統帝ノ自由ヲ過度ニ拘束スルハ内外ニ對スル關係却テ固シカラスト思考シ曾テ其旨外務側ニ談合シタル處外務側ニ於テモ同意見ナルモ目下滿洲時局ニ關連シ帝ヲ擁シテ各種ノ方面ヨリ諸種ノ運動ヲ行ハントスルモノアル折トテ之カ爲メ帝國ノ國策遂行ニ果ヲ及ボスコトナキヲ保セサルト共ニ帝自身ノ身邊ノ保護ヲモ必要トスヘキニヨリ相當ノ警戒ヲ加ヘアル次第ナリトノコトニテ尙外務側ニ於テモ何レ滿洲方面ノ政情略々安定シ東三省民衆ノ總意カ帝ヲ擁スル氣運トモナリ國策遂行上支障ナキニ至ラハ之ヲ自然ニ委スルコトニ異存ナキ由ナリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

487

副

4-1-295

六、一一、八、一一五〇無線 北平 署(三二〇)

在北平 酒井輔佐官

次官(一連、二連、馬要則令官)
次長(佐領參謀長、在支各地武官)

第八九番電

在天津宣統皇帝ノ滿洲出發風説ハ奉天派ハ最モ重大視シアルトコロ
北平抗日會ハ各方面ニ左記要旨ノ大日附通電ヲ發セリ奉天事變ノ眞
魁タル土肥原大佐天津ニ來リ皇帝ニ復辟ヲ勸メ又失意ノ軍人政客ヲ
煽動シ北支ヲ擾亂シ撤兵延期ノ口實ヲ作ラントス云々 八日

外務省

S 1.6.2.0 - 2 489

4-1-276

第 號

在天津榮局總領事ヨリ附原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月十一日發
同 六年十一月十一日發着

電信第五〇三號(暗、至急部外秘)

不審ノ虞アリ内査シタル處宣統帝ハ十日當地ヲ脱出セリ不取敢(十
二時)

支、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0 - 2 400



144-36

外務省

昭和6 一八九〇〇 暗
幣原外務大臣
第六二七號（極秘）
本官發天津宛電報
第五七號
宣統帝ハ八日夜天津事件勃發ニ乘シ秘カニ離津シ滿洲ニ向ヒタルヤ
ノ趣旗人側ヨリ聞込アリ眞偽判明セサルモ爲念
大臣、支、南京、奉天へ電報セリ

北平 十一月初一日前後發
本省 矢野參事官

は(1)

S 1.6.2.0-2

432

4-1-272

外務省

次官（北岡武官）
大長
機密第七〇番電（塘沽十六區運糧機密第二二番電十一日午後四時）
宣統廢帝昨十日夜密ニ天津脱出本日營口ニ向ヘリ

二連司令官
著（四六二）

一一一〇〇〇

は(1)

S 1.6.2.0-2

431

副

4-1-273

第 號

奉天林總領事
牛莊荒川領事
關東廳本長官
宛
本省 昭和六年十一月十一日後發

電信合第一四二一號（暗、至急極秘）

宣統帝脫出ニ關スル件

宣統帝ハ十日天津ヲ脫出シタル處ニテ滿洲方面ニ向ヒタル模様ナル
ニ付同帝ノ行衛御探査ノ上御同電アリ度シ
支、北平、天津、南京へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0 - 2

493

4-1-274

第 號

在吉林石州總領事ヨリ哈爾濱外務大臣宛
吉林 昭和六年十一月十一日後發
同 六年十一月十一日後發

電信第一七三號（暗）

當地方ハ歴史的關係上滿洲人今向多ク新政府ニ起用セラレタル者亦
鮮カラサル處奉天方面ニ於ケル復辟說ニ刺戟セラレ當方面滿洲人間
ニ敵帝擁立ノ運動內密ニ起リ居リ最近當地有力滿洲人鍾岳（前副都
統ノ子）ハ當地及附近七縣ノ滿洲人ヲ代表シ復辟ニ對シ日本ノ後援
ヲ請フ旨長文ノ請願書ヲ本官ニ提出シ尙在吉中ナリシ葉山少佐ニモ
提出シタル様子ナルカ本官ハ之ハ大問題ニシテ日本側ニテ援助ヲ與
フル如キコトヲ輕々ニ決シ侍ヘキモノニ非スト傳ヘシメ置キタルカ
情報ニ依レハ鍾岳ハ無治トモ既ニ瞭解アリ無ハ長教局長金碧（前親王
ノ第七子）ト聯絡シ復辟（脫）ヘキ人物ノ起用等根本的下拵ヲ爲シ

外務省

S 1.6.2.0 - 2

494

副

4-1-277

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月十一日後發
同 六年十一月十一日後着

電信第五〇四號（暗、至急部外極秘）

往電第五〇三號ニ關シ

館員カ十一日朝他用ヲ以テ宣統帝屋敷前ヲ通過シタル際表ノ門扉半
閉鎖サレ居ルヲ不審トシ調査セシメタル處右ハ往電第四八一號爆彈
事件以來ノ仕來リナル由ニシテ尙帝ハ八日暴動發生當夜深更當租界
ニ居住スルコト危險ナリヤト側近者ニ尋ネラレタル事實アリ直ニ爲
念巡捕三名ヲ増加シ内外警備ニ當ラシメ爾來何等邸内ニ異常無カリ
シコト及八日軍側ニ對シ重ネテ中止勸告ヲ爲シタル際目下連出計衛
ナキ旨確メタルコトアルモ帝ハ暴動以來不快ト稱シテ引籠リ居リシ
ヲ以テ側近者ヲ嚴密取調ヘ漸ク自白セシメタル所ニ依レハ警察官及

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

496

副

居ルモノナリト謂ハル今般謝介石ノ交渉増長任命モ亦之ト關係アル
ニ非スヤト思ハル
奉天ヨリ哈爾濱ヘ轉電アリ度シ
奉天、支、北平、天津、關島、長春ヘ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

495

訓

巡捕ニ發見セラルルコトハ帝ノ最モ恐レタル所ナルカ豫テ買物用ト
シテ用事ヲ拵ヘ使ヒ價シ居ル「オーブン」自動車ニ十日夕刻英租界
ニ在ル皇妹ノ衣服等一包ヲ運ハセ更ニ目ヲ盗ンテ帝自身ヲ荷物トシ
積込ミ逃カシ塘沽行「タツグボート」ニ乗り込マシメタリトノ趣ナ
リ軍部ニ對シテハ豫テ切實ニ自重ヲ求メ居リ又前述ノ経緯アルモ若
シ何等事情アラハ打明ケラレタキ旨懇談セシメタルモ關係セストノ
由一方塘沽派遣警察官ニハ取調ヲ命シタルモ未タ回報無シ
公使、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0 - 2

497

4-1-278

訓

號
在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛
天津 昭和六年十一月十一日前發
同 六年十一月十一日後着
電信第五一二號(暗、大至急部外極秘)
往電第五〇三號ニ關シ
塘沽警察ヨリノ報告ニ依レハ陸軍運輸部小蒸汽船比治山丸ハ十一日
未明土霧等防備材料ヲ積込ミ天津ヨリ到着シタルカ午後大沽「パ
ニ出掛ケタル模様ニシテ其後運輸部ヨリ軍用電話ヲ以テ「荷物ヲ無
事淡路丸ニ届ケタル」旨天津ニ通知セルヲ聞キタル由右ニ依レハ帝
ノ脱出ニハ軍部方面ノ豫備行爲アリ目下該船舶ニ依リ營口へ航行中
ト認メラル
軍側ニ就キ真相確メ中ナルモ不取敢
(十時)
文、北平、奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0 - 2

498

第 號

幣原外務大臣ヨリ在^牛莊荒川領事、關東廳塚本長官宛
本省 昭和六年十一月十二日後發

宣統帝脱出ニ關スル件

電信合第一四四〇號(暗、大至急、極秘)
往電合第一四二一號ニ關シ

宣統帝ハ十一日午後大沽ニ於テ漢路丸ニ乗船シ目下營口ニ向ヒ航行
中トノ情報アリ本件ハ絕對ニ外部ニ漏洩セサル様御留意アリ度

外 務 省

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月十二日後發
同 六年十一月十二日後發

電信第五一三號(略)

十二日ノ新聞ハ昨十一日午後三時日本軍小蒸汽船一隻便服ノモノ數
人及兵四、五ヲ乗セ日佛租界ヨリ出テ下航シタル處一般ニ宣統帝ヲ
運送セリト推測シ居ル旨ヲ報シ又益世報ハ土肥原ノ天津暴動及新政
權設立計畫ハ失敗シタルカ第二段トシテ帝ノ赴奉ヲ脅迫シ居リ帝ハ
未タ完全ニ承認セサルモ側近者ハ之レニ同意シ復辟計畫モ大体臆定
済ニ付土肥原ハ近日中帝ヲ擁シ大連經由赴奉スル由ノ記事ヲ掲ケ居
レリ。
公使、北平、奉天ニ轉電セリ

外 務 省

4-1-282

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年十一月十二日後發
同 六年十一月十二日後發

電信第一二五五號（暗、至急極秘）

貴電合第一四二一號ニ關シ

十二日午前十時半軍司令部ヨリ宣統帝ノ勅諭ニ關シ新聞掲載禁止發
令方歸東應ニ依頼シタル旨電話アリタルニ依リ宣統帝ノ勅諭ハ事實
ト認メラルル處外國領事間ニモ宣統帝十一日奉天ノ傳ハリ居レリ
目下勅諭探査方手配中ナルモ不取敢
支、北平、天津へ轉電セリ

外 務 省

S 1.6.2.0-2 501

4-1-283

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年十一月十二日後發
同 六年十一月十二日後發

電信第一二五八號（暗、極秘）

貴電合第一四二一號宣統皇帝ノ來津ニ關シ十二日軍司令部ニ尋ネタ
ル處司令官ハ何等開知スル處ナク數日前皇帝ノ來津ハ未タ機熟セサ
ハヲ以テ急クヘカラサル旨板垣參謀ヲシテ天津軍ニ通報セシメ置キ
タル程ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ黑龍江方面ノ軍事モ片付カス各
地ノ政權モ未タ確立セス將又國際關係モ頗ル緊張セル今日直ニ復辟
ヲ實行セントスル計畫ハ頗ル策ヲ待タルモノニアラス假令同皇帝來
津ストモ直ニ擁立セシムルカ如キコトナキヲ待策トスト言ヘルニ
同司令官モ大体卑見ニ同意シ假令來津スルモ直ニ運動ヲ起サシムル
コトナカラシムル様努ムヘク尙來津ノ上ハ速ニ當方ニ通知スヘキコ

外 務 省

S 1.6.2.0-2 502

4-1-284

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月十二日後發

同 六年十一月十二日後着

第五一四號(大至急、部外極秘、略)
往電第五〇三號ニ歸シ

此計畫ニ參加セシ側近者ニ於テハ訪問客等アレハ帝ハ病氣靜養中ナ
ル次第ヲ答ヘ老臣連中モ從來通り出仕シ極力極秘ヲ保ツ考ニテ(皇
后モ帝ノ脱出ヲ承知ナク十日夜銃聲ノ爲眠ラレス十一日午後三時
起床セラレタル際初メテ之ヲ打明ケ目下事實ヲ承知セルハ右以外合
四人ナル由)食事ノ如キ些細ノ點迄充分注意シ居ル旨述ヘ居リ一方
警衛巡查ノ報告ニ依レハ警衛巡捕ハ「帝ハ豫テ脱出中ノ處十日夜一
應歸邸ノ上外國ニ逃ケタル」モノト感付キ居ル趣ナルカ從前同様彼
等ハ總テ構内ニ起居シ居ルニ付到底外部ニ漏ルルコトナキ見込尙一

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

504

トヲ約セリ
支、哈爾濱、北平、天津、吉林へ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

503

REEL No. A-0872

0 : 0 5

アジア歴史資料センター

副

(脱)人ヨリ得タル確實ナル情報ニ依レハ帝ハ當地ニ於テ勦撃製造
方ヲ命セラレタル由
支、奉天、北平へ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

505

4-1-281

第 號

在營口荒川領事ヨリ幣原外務大臣宛

營口 昭和六年十一月十二日後發
同 六年十一月十三日前着

電信第九四號 (至急、暗)

貴電合第一四二一號ニ關シ

當館ノ探査スル處ニ依レハ宣統帝ハ十一月十日午前天津租界ヲ脱出
シ日本船淡路丸ニ搭乗シ本邦人上角利一ヲ案内人トシ一行約二十名
十一月十三日午前七時頃營口滿鐵埠頭著ノ趣ナリ

尙二、三日附屬地日本旅館ニ投宿シ終日引籠リ居ルカ右ハ何レモ
清朝ノ舊臣ニシテ其内一人ノ如キハ白晝ヲ著ヘ人品卑シカラサル人
物ニシテ清朝重臣某ナリトノ風説アリ右何レモ先發トシテ當市ニ
潜行セルモノ如ク明朝ハ更ニ奉天ヨリ多數支那側要人ノ出迎ヘテ

外務省

9.9

S 1.6.2.0 - 2

506

REEL No. A-0872

0 : 0 6

アジア歴史資料センター

副

4-1-289

第 號

天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津 昭和六年十一月十三日前發

同 六年十一月十三日後着

電信第五二〇號 (至急部外極秘)

住電第五一二號末尾ニ關シ軍備ハ一切闕知セストノコトナリシカ十三日朝本官支那側ト交渉ノ爲外出中司令部員來館シ今迄隠シタルモ實ハ(不明)必要ト考ヘ尙帝及關東軍部(司令官ナリヤト反問セシ處司令部ト答ヘタリ)ノ希望モアリ十日夜私カニ屢數ヲ脱出セル帝ヲ自動車ニ乗セ十一日塘沽發漢路丸ニテ營口ニ送リタル由打明ケ此ノ責任ハ軍備ニ於テ負フヘキモ兎ニ角總領事及館員ニ迷惑ノ力カルヲ慎レル旨謝シタル後軍トシテハ出來得レハ全ク無關係ナリト押シ通ス積リニシテ又差當リバレル見込ナキ模様ナルカ愈ノ場合ニハ「右ハ帝自身ノ計畫ニシテ元來滿洲ニ對スル熱烈ナル企圖ヲ有シ居

外務省

S 1.6.2.0-2

508

副

ル趣ナリ當地憲兵隊ニ於テハ實電接到前既ニ本件ニ關シ何等カ入報アリタルモノノ如ク夜半ヨリ活動ヲ開始シ居レルカ憲兵分遣隊長ノ内話スル處ニ依レハ該船營口著ト共ニ一行ノ保護ニ付テハ一切軍部ニ於テ措置スヘク尙一行ノ行先地ハ目下ノ處不詳ナルモ軍備ニ於テハ一時湯崗子ニ落着カシムル意向ナルカ如シ尙今後ノ行動ハ精査ノ上追報ス支、北平、天津、奉天ヘ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0-2

507

4-1-286

第

號

在宮口荒川頭等ヨリ幣原外務大臣宛

宮口 昭和六年十一月十三日午後

同 六年十一月十三日午後

電信第九九號（暗、機秘）

直統帝ハ本十三日午九時頃路丸ニテ洲崎埠頭着出迎ノ爲ニ憲兵分
道隊長、甘粕正彦、憲兵中尉、一昨夜奉天ヨリ來當セル其他日支人
數名ニ護ラレ歸則日本版圖ニ小恙ノ上則此憲兵分道隊長等ト共ニ午
則十時半當頭大石橋ニテ午十一時十五分發ノ（機秘）車ニ乘供ヘ
湯岡子ニ同ヘリ市ハ十一日午後四時半夜區車將役ノ半版ヲ指シ一當
地ニテ支那版ニ着管ヘタリ一從者林藏、林藏三ノ二名邦人案内役上
庄利一、工藤三郎、大谷勘三及台使三名ニ護ラレ大津ヲ脱出シ
タル趣ナリ
轉電先則電ノ通

外務省

S 1.6.2.0-2

510

ル處最近爆彈事件有過狀況ニ依リ一身ノ危險ヲ感シ居タル矢先八日
夜事件勃發セシヲ以テ之ヲ好機トシ日本程界ヲ逃レ數日間特務行動
ノ後渡滿セシ一旨發表スルコト番ト打合セ濟ニ付特ニ屋敷ヲ脱出セ
シ時日ニ注意シ外務側ト連絡セサル機微シ度シト述ヘタルヲ以テ館
員ヨリ委細ハ公使ニ傳達スヘキモ如何ナル國策カハ知ラヌカ豫テノ
當方ノ報告ヲ疎略シ面モ其結果内外ニ對シ恰モ當方カ暴動ヲ利用シ
脱出セシメタルカ如キ印象ヲ與ヘルコトハ衷心之ヲ遺憾トスル旨並
右様ノ策動ニハ斷シテ反對ナルカ此ノ上ハ民衆ノ注意ニ反シ帝ヲ押
シ付ケ若ハ利用スルコトナキ様關東軍ニ於テ慎重考慮スル機中過ラ
レ度キ旨述ヘ置キタル由
公使、北平、奉天ヘ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0-2

509

REEL No. A-0872

0 : 0 8

アジア歴史資料センター

第 號

在牛莊荒川嶺事ヨリ附原外務大臣宛

牛莊 昭和六年十一月十三日發
同 六年十一月十三日發着

第九六號(附、機密)
任電第九五號ニ附シ
淡路丸船長ノ渡ス所ニ依レハ天津ニ於テ土肥原大佐主導トナリ帝ノ
脱出ヲ束シ密カニ租界ヨリ自動車ニテ埠頭ニ進行シ一行ハニ候間
就ニヲ有スル軍隊ニ警護サレタル「ランチ」ニ移リ増田ニ赴キ淡路
丸ニ乗込ミタル船ナリ土肥原大佐ハ目下頼リニ北平天津間ヲ往來シ
帝ノ母及妃ノ脱出ヲ計策シツツアル由
尙昨十二日來當セル森下守備隊司令官及同編官一昨日奉天ヨリ來レ
ル憲兵軍曹及甘粕正彦並任電第九四號所載先遣ノ支那人三名モ皆帝
一行ト同列車ニテ離當セリ

外 務 省

則電ニ帝カ當電ニテ支那版ニ着番ヘタリトセルハ誤ニテ軍服ノ體ナ
リシ趣ナリ
則電ノ通轉電セリ

外 務 省

印

4-1-285

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年十一月十三日午後

同 六年十一月十三日午後

電信第一三〇號(增、極秘)

宣統一行本朝九時當口入港ノ後路丸ニテ乗當湯岡子洲草園ニ入レリ
隨員上崎藏三郎、大谷勲、上佐利一、支那人林威、林誠三父子外支
那人三、宣統帝ノ行動等ハ一切外部ニ漏レサル様手配シ置ケリ

外務省

S 1.6.2.0-2

514

印

4-1-291

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年十一月十三日午後

同 六年十一月十三日午後

電信第一二七一號(至急、極秘、增)

十三日軍司令官ハ本官ニ對シ宣統帝ハ十三日午前十時當口ニ到着シ
タルカ一先ツ湯岡子ニ赴ク旨ナリ軍トシテハ帝ヲ湯岡子若ハ五龍背
ニ落着カシメ外部トノ交通ヲ遮斷シテ所謂軟禁狀態ニ置キ當分帝ヲ
中心トスル諸政治的策動ヲ防クコトトシ且右ハ關東廳ノ手ニ依リ行
ハシムルコトトシタキ意向ニテ目下同廳ト交渉中ナリト述ヘタリ
公使、北平、天津、哈爾濱、吉林へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0-2

513

REEL No. A-0872

0 : 1 0

アジア歴史資料センター

4-1-292

第 號

在遼陽山崎領事代理ヨリ幣原外務大臣宛

遼陽

昭和六年十一月十三日後發

同 六年十一月十三日後着

電信第五四號 (至急、暗)

宣統帝ハ從者十數名ト共ニ本十三日午後湯崗子着對鞏關ニ投宿セリ
公使、北平、奉天、天津へ轉電セリ

外務省

S 1.6.2.0-2

515

4-1-290

第 號

在天津桑島總領事ヨリ幣原外務大臣宛

天津

昭和六年十一月十三日後發

同 六年十一月十三日後着

電信第五二四號 (暗、大至急極秘)

往電第五二〇號ニ附シ

十三日ノ支那新聞ハ帝カ前晚當地ヲ脱出汽船一詳報ニ依レハ驅逐艦
刈萱ニテ大連ニ赴キタル旨ヲ報シ又本邦新聞及通信米國總領事ヨ
リモ聞合セアリ此ノ際當館一又ハ本省ヨリ左ノ如ク發表スルコト
然ルヘシト考ヘラルル處御意向折返シ同電アリタシ
豫テ滿洲方面ニ於テ前清宣統帝溥儀氏ノ獨立運動ヲ爲スモノアル噂
ナルヲ以テ當館ハ帝國政府ノ訓令ニ依リ果次其ノ輕舉妄動ヲ戒メ來
リシ處全ク之ニ同意ハセラレサルモ未タ其ノ時機ニ非スト思考スル
旨繰返シ述ヘラレタリ而シテ十一月六日夜何者カ生果ノ贈物中ニ爆

外務省

S 1.6.2.0-2

516

副

4-1-293

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年十一月十三日後發

同 六年十一月十三日後着

電信第一二六六號（暗）

本官發天津宛電報第二二號

大臣宛貴電第五一四號ニ關シ

宣統帝ノ脱出ハ當方面ニ於テハ相當廣ク知レ渡リ居ルニ付（尤新聞記事ハ掲載ヲ禁止シ居レリ）此ノ際我方ニ於テ何時迄モ右脱出ノ事實ヲ隱蔽ニ努ムルコトハ實效ナキノミナラス却テ痛クモナキ腹ヲ搜ラルル虞アリ本官モ外國領事ノ質問ニ對シ行先ハ知ラサルモ脱出ノ事實丈ハ情報ニ接シ居レリト應酬シ居ル次第ナリ御參考迄大臣、支、北平ニ轉電セリ

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

518

彈二個一民國十六年製一ヲ入レ之ヲ届ケ又ハ一中國共產黨天津支部鐵血團本部一名義若ハ匿名ヲ以テ脅迫狀ヲ送レル者アリ次テ八日夜當地華街方面ニ於テ暴動發生セル爲當館ヨリハ側近者ヲ通シ特ニ警務スヘク身邊ノ危害ニ付テハ安心アリタキ旨申入レタリ同人ハ爾來不快ト稱シ引籠リ居ラレタルカ最近當地中國新聞ニ其ノ脱出ヲ傳ヘラルルヲ以テ側近者ニ就キ取調ヘタル處八日（買頭往電参照アリタシ）暴動突發ノ際密ニ脱出セラレタルコト判明セリ行先地ニ付テハ未タ當地ニ於テ判明セス

外務省

9.9

S 1.6.2.0-2

517